

令和3年度 学校教育自己診断の結果と分析

【総合学科について】

①データ解説

- * [(1) 生徒全体と3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
 - 項目 ①、②、⑭ (系列変更前までは戻っていないが、昨年度より伸びている)
 - 項目 ⑪、⑫、⑮ (3年間で毎年増)
- * [(2) 令和3年度 生徒全体と各学年比較] に着目
 - 項目 ①、② (1年生において肯定が強い)
- * [(3) 24期3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
 - 項目 ① (微増)、② (増)、③ (増)、④ (増)、⑤ (増)、⑪ (増)、⑫ (微増)、⑭ (増)、⑮ (増) →多くが伸びている。

②分析

- * 24期3年生は入学後に系列変更が行われ、現2、3年生は総合学科としての魅力を失いかけた時期があったと考えられる。一方1年生は入学時より現状が今宮高校の内容であることを理解して入学しており、特に「産社」でのキャリア教育、SDGsをテーマとした学びにより、総合学科らしさを受け止めてくれていると考えられる。今後は「産社」「総探」の体系的なプログラムにより総合学科の特徴をさらにアピールしたい。
- * その中でもアウトプットするプログラムが豊富であることは受け止められている。
- * 2年生、3年生は系列変更で総合学科らしさの減少を感じながらも、学年進行につれて学んだプログラムから受けた成果や意義を感じておりその数値は伸びている。
- * 現状プログラムをさらにブラッシュアップすればさらに成果が出ると考えている。
- * 3年間の体系的構築を確実に進める方向性は合っていると考えられる。

【進路について】

①データ解説

- * [(1) 生徒全体と3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
 - 項目 ⑥ (微増)、⑳ (微増)
 - 項目 ⑱ (微増)、㉑ (増)、㉒ (増)、㉓ (増)
- * [(2) 24期3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
 - 項目 ⑥ (微増)、⑱ (増)、㉑ (増)、㉒ (増)、㉓ (増)

②分析

- * 学校の授業(講習)に対する生徒の受け止め方はさらに肯定的に感じてもらえるよう努めなければならない。一方で本校は教育産業との連携も重要視しており連携についても精査し、進路指導のさらなる充実を図りたい。

【学習・授業について】

①データ解説

- * [(1) _生徒全体と3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
項目 ⑧ (維持できている状態)、項目 ⑩ (増)

②分析

- * 家庭学習時間が横ばいである。自学自習を伸ばすことが進路実現においても重要である。自主的な学びの促進を図り、家庭学習時間を伸ばすようはたらきかけていく。
- * 教え方に工夫、そして熱心であったかについては、ICT環境の効率的な活用、評価と指導の連動を行い、指導と評価の一体化を充実させることによりさらに数値をあげていきたい。

【生徒指導について】

①データ解説

- * [(1) _生徒全体と3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
項目 ⑳ (昨年度より伸びているが、一昨年度には戻せていない)、
項目 ㉓ (増)
- * [(2) _令和3年度 生徒全体と各学年比較] に着目
項目 ㉑ (1年生における数値は高い)

②分析

- * 「自主規制」を守るために、教員が指導に関わり始めたのが一昨年度から。昨年度は大きく学校の指導に対しての不満が数値にもあらわれた。今年の変更があったことに対しての不満は残りつつも、ルールへの尊重は保たれていると考えられる。
- * 1年生では指導への理解度は高く、現在の指導が逸脱した指導ではないと捉えてくれていると考えられる。今後も粘り強く説論を行いながら、全生徒の理解と行動を促したい。
- * 他校との比較をすると、本校は自由を十分に尊重していると判断している。

【人権・教育相談について】

①データ解説

- * [(1) _生徒全体と3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
項目 ㉓ (増)、㉔ (微増)、㉕ (維持)、㉗ (増)、㉘ (増)

②分析

- * 相談のできる先生の存在が増えていることは評価したい。「寄り添い」をキーワードに教員には求めてきたが、さらにどの先生にも相談できると言われるよう意識向上に努めたい。
- * 人権的な対応、学びは伸びてはいるが、さらに伸ばさなければならない。障がいについての学びの機会は伸びているものの、共生推進教室をもつ学校としてはまだ満足できない状況。共生推進教室には今年2年生にだけ在籍しているだけなので2年生では数値が高くなっている。学校全体に共有していく取り組みを考えていかなければならない。

【国際交流】

①データ解説

- * [(1) _生徒全体と3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
項目 ③⑨ (維持)

②分析

- * 相談で分析

* 感染症の影響が大きく、やむを得ないとはいえ。下がっているのはプログラム中止となっている昨年度からである。

* その中で、ICTを利用して交流を行うなどにより、大きな落ち込みとはなっていない。プログラム実施が可能になることを期待する。

* 次年度からは1, 2年生は英検を全員受験し、卒業までに2級取得を目標とする。獲得した力を活かすことができるプログラム作りも課題にしたい。

【防災】

①データ解説

- * [(1) _生徒全体と3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
項目 ④① (増)

②分析

* 昨年度は避難訓練が実施できていないので、大きく落ち込んだが、今年は一昨年度を超えたので、取り組み内容は成果があったと考える。生徒視点での意見収集を行い、改善を進めた成果ととらえている。さらに意識を高めていきたい。

【ICT】

①データ解説

- * [(1) _生徒全体と3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目
項目 ④④ (新規なので比較はできない)

②分析

* 85%が肯定的であることは評価できる。感染症による緊急的な対応を迫られながらも本校は生徒の学び継続を確保するための対応には注力してきた結果であると考えている。

* 生徒の意見を受け止め、さらに有効的で効率的な利用を求めて実践していくことが重要であり、研修も行いながら充実に努めたい。

* 教育産業コンテンツを有効活用するための研修を実施していく。